

熊本大学附属図書館報

東光原

Kumamoto University Library Bulletin

ISSN 0917-7604

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

45

July 2006



県立美術館へ行こう！

阿蘇家文書修復完成記念

阿蘇の文化遺産展への招待

熊本大学永青文庫セミナー手紙からみた細川重賢の文遊

熊本大学附属図書館南棟・放送大学熊本学習センター合築棟竣工記念式典

平成17年度図書館諸統計 学術リポジトリ 水俣病関連資料

県立美術館へ行こう!

阿蘇家文書修復完成記念 阿蘇の文化遺産展への招待

稲葉 継陽

いま、本学の附属図書館、文学部、社会文化科学研究科、教育学部等のスタッフは、熊本県立美術館等の方々と「阿蘇家文書修復完成記念展実行委員会」を組織し、本学所蔵の『阿蘇家文書』全巻出展を目玉とする展覧会の準備を進めています。

題して「阿蘇家文書修復完成記念 阿蘇の文化遺産展」。

熊本城二の丸の県立美術館本館2Fの展示室をいっぱいを使用し、文化庁や日本古文書学会、熊本県文化協会、阿蘇市町村会、さらに県内主要マスコミも後援に加わった、大規模な展覧会となる予定です。期間は平成18年（2006年）9月8日（金）～10月22日（日）の一ヶ月半です。

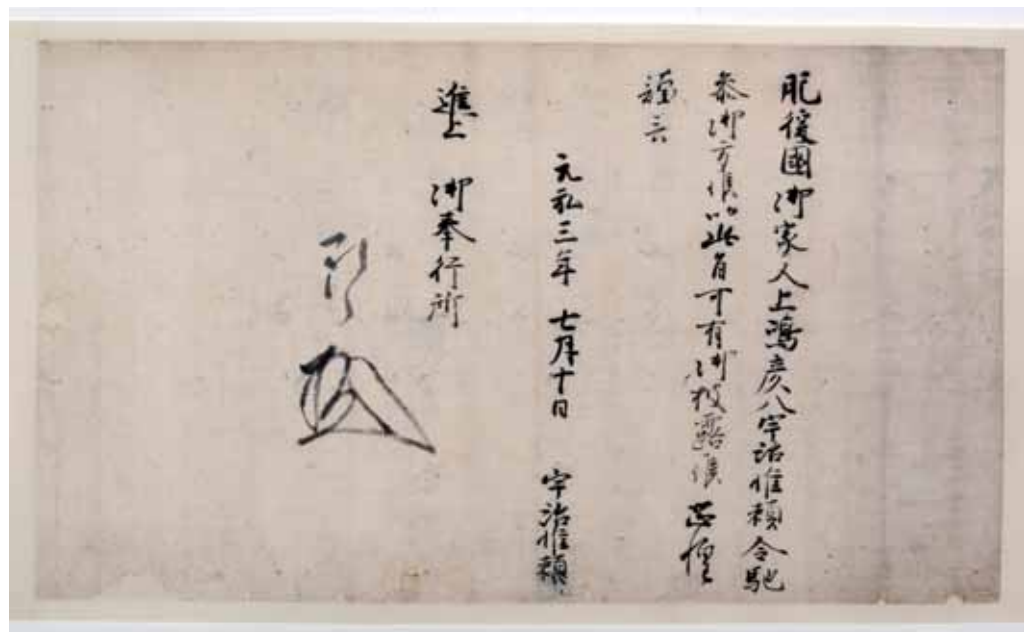
『阿蘇家文書』をご存知ですか？

『阿蘇家文書』は、阿蘇市（旧一の宮町）の阿蘇神社の宮司（旧大宮司）家に伝来した極めて貴重な古文書群です。文書は全304通、鎌倉・南北朝期（13・14世紀）を中心に、平安末から幕末期に及び、34巻に成巻されており、その大部分が原本で、わが国有数の中世文書群たる内容を備えています。

阿蘇神社は火山神として早くから国家的信仰の対象となり、平安時代末期には肥後国の一宮として甲佐・健軍・郡浦三社を末社とし、その宗教的権威は広く肥後一国に及びました。社領も阿蘇・鮑田・詫麻・益城・宇土・八代の五郡に及び、大宮司阿蘇氏は肥後有数の武士団（在地領主）

として発展しました。

12世紀末に鎌倉幕府が成立すると、初代執権の北条時政が阿蘇本末社領の管理権を獲得して大宮司の上に立つことになったので、鎌倉期の『阿蘇家文書』には、時政・義時・泰時など執権北条氏歴代の発給した貴重な文書の数々が含まれることになったのです。



元弘三年七月十日 上島惟頼着到状(足利尊氏花押)

南北朝期（14世紀）になると、建武政権（南朝）も武家方（北朝）も阿蘇大宮司の勢力を高く評価し、多くの所領を寄進するとともに、内乱のなかで軍勢催促を行いました。これに対し、大宮司一族も多様な対応を示したので、『阿蘇家文書』には南北両朝が発給した極めて内容豊富な文書が含まれ、内乱期の九州の政治状況を知る上でもっとも重要な史料群となっています。

さらに南北朝～室町期の中には、本末社領に関する土地関係史料が多く含まれており、神社領や九州荘園さらに九州地域における成立期の村共同体研究の上でも、類例なき歴史情報を提

供しています。また、戦国期の政治状況を示す文書や、阿蘇社の造営・祭事関係史料も少なくありません。

以上のように第一級の内容をもつ『阿蘇家文書』は、日本中世の社会経済史、政治史、宗教史にわたる学界状況を牽引するような研究を生み出す源として利用され続けています。

『阿蘇家文書』の大部分は、昭和30年代に熊本大学の所蔵となりました。次いで昭和62年（1987）には、その学術的・文化的価値が評価されて、国の重要文化財に指定されることになったのです。

全巻を出展する画期的な展覧会

熊本大学移管直後の本文書群の成巻は、文書保存上かならずしも適切でなかったため、重要文化財への指定を契機に、文部省（当時）及び熊本大学当局の理解を得て、京都の表具職人の手で、毎年2～3巻ずつ重要文化財にふさわし

い太巻の軸装へと仕立て直す作業が継続されてきました。

その修復作業は平成17年度をもって全34巻が完成し、附属図書館貴重書庫に収蔵され、研究・教育に利用されています。本展覧会は、修復

完成を機に、本学スタッフと熊本県立美術館との共同作業によって企画されたものです。

展覧会は本学と附属図書館にとって、大きな意義を持つものです。

(1) 文化資源の保有・活用機関としての本学の位置のアピール

明治以来の高等教育制度の確立過程において、中世や近世の文献史料群を収集した大学は数多く、さらに文書史料の収集と公開を目的とした文



桐箆筥に収められた『阿蘇家文書』

書館等も各地に設置されてきました。

しかし、『阿蘇家文書』や『永青文庫細川家文書』のように、極めて学術的価値の高い大量の中・近世文書群を、その文書群が形成された現地において、しかもそれらを構成原形態のままに管理し活用している機関は、熊本大学附属図書館の他にはごく数例をかぞえるだけです。しかし残念ながら、こうした本学及び附属図書館の位置についての一般認識は、まだまだ高いとはいえません。

本展覧会は、県民に親しみ深い県立美術館を会場として、県内主要マスコミの後援をうけ、さらに全国の日本史研究者を組織する「日本古文書学会」の大会を本学キャンパスに誘致して開催されます。

それは、本学及び附属図書館の文化資源保有・活用機関たる独自の位置を地域社会と学界に強く、確実にアピールする機会となり、その効果が本学・附属図書館の研究・教育・文化資源収蔵機関としての充実の条件へとほねかえってくることにもなるでしょう。

(2) 地域社会への学術的発信と貢献

昭和30年代の移管以来、『阿蘇家文書』は本学内外の研究者によって利用され、多くの研究成果が蓄積されてきました。また、国費と大学予算を投入した本文書群の修補事業は、文化資源の管理と活用についてのモデル的な一事例として、ひろく参照されるべきものです。

県立美術館という開かれた施設における展示



修復完了した『阿蘇家文書』

会、シンポジウム、図録刊行を通じて、これらの成果を県民と地域の文化・経済諸団体にわかり易い形態でもって示すことは、熊本県における代表的な研究教育機関としての本学にとって、まさに使命であると考えます。

さらに、本展覧会を通じて示される学術的成果が、諸自治体の文化行政や、地域の歴史文化を活かしつつ取り組まれている諸事業の進展等に寄与することにもなるでしょう。

(3) わが国の歴史学界への発信

すでに述べたように、『阿蘇家文書』は単なる地域史料群ではなく、中世武士団、荘園制、内乱期の政治史、中世村落史、中世宗教史、さらに中世国家史に及ぶ、わが国の中世史研究が主要な対象としてきた諸研究課題をカバーする歴史情報を含んだ、第一級の中世文書群です。また大部分が原本であることから、古文書学上の研究対象としても多くの研究者から注目されています。

展示期間中に黒髪北キャンパスで開催される

「日本古文書学会」の大会には、多くの研究者が参加します。それら参加者の閲覧に『阿蘇家

文書』全巻を供することは、わが国の歴史学界への大きな発信となります。

大学と美術館とのコラボレーション

現在、実行委員会メンバーは具体的な打ち合わせを重ね、展示プランを検討中です。趣旨を理解された本学当局と熊本県からも十分な財政措置と支援を頂くことができました。本展覧会の画期的な一面は、大学と美術館とのコラボレーションによる、初めての企画であるという点にもあります。

本展覧会には、『阿蘇家文書』の他にも、県立美術館が長年収集してきた阿蘇地方の中世美術品、あるいは戦国時代の阿蘇氏の館から出土した遺物（熊本県所蔵）等も、併せて出展されます。まさに中世阿蘇の各種文化遺産をパッケージした内容となるのも、コラボのなせる技です。

そして何より強く感じるのは、大学スタッフと美術館スタッフという、異なる個性の融合が、文書史料の魅力ある展示プランを産みつつある

ということです。私たち大学スタッフは文献史料研究の専門家、美術館スタッフは文化資源を展示という手段によって市民に提供する技術と経験を蓄積した、プロ集団です。『阿蘇家文書』に関する知見・研究成果を私たちが美術館に持ち込み、それが展示のプロの手によって誰の目にも分かりやすい展示内容へと組み上げられてゆく。その過程に身を置いていると、今まで味わったことのない気持ちの昂りを覚えます。

それを象徴するのが、本展覧会のために編集作業を進めている図録です。そこには美術館スタッフが撮影した『阿蘇家文書』等、全文書のカラー写真が掲載されることになりました。『阿蘇家文書』研究の決定版、必携の1冊とも言うべき内容となります。これも、「文書群を中心とした展覧会の図録はどうあるべきか」という両者の議論があってこそ実現できたものです。

このように本展覧会は、文書史料の文化的価値の新しい発信方法を追求した、画期的な試みとなるものと思っています。

本学の教職員・学生の方々が一人でも多く来場され、『阿蘇家文書』の豊かな世界に触れられることを望んでいます。

いなば つぐはる
社会文化科学研究科助教授



熊本県立美術館

図書館諸統計 平成17年度

I. 利用統計

(1) 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央館	医学系分館	薬学部分館	計
開館日数	335	338	331	1,004
時間外開館日数(内数)	(285)	(313)	(313)	(911)
入館者数	329,837	126,700	53,836	510,373
時間外入館者数(内数)	(107,066)	(40,344)	(31,829)	(179,239)
24時間入館者数(内数)	(0)	(3,156)	(12,303)	(15,459)
貸出冊数	57,662	4,680	1,193	63,535

(2) 相互利用(他大学等との現物貸借・文献複写)

		中央館	医学系分館	薬学部分館	計
現物貸借	依頼冊数	799	38	12	849
	受付冊数	415	9	8	432
文献複写	依頼件数	3,451	1,378	632	5,461
	受付件数	1,677	2,991	539	5,207

(3) 貴重書等の利用〔中央館〕

	松井文庫	北岡文庫	その他
利用者数	25	336	10
利用件数	302	4,909	152

(4) OPAC(蔵書検索システム)の利用

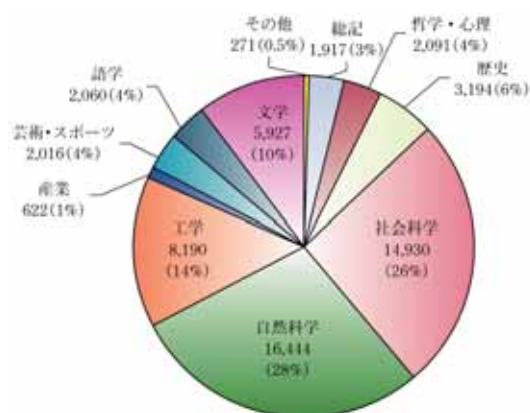
利用件数	229,402
------	---------

(5) 視聴覚資料の利用〔中央館〕

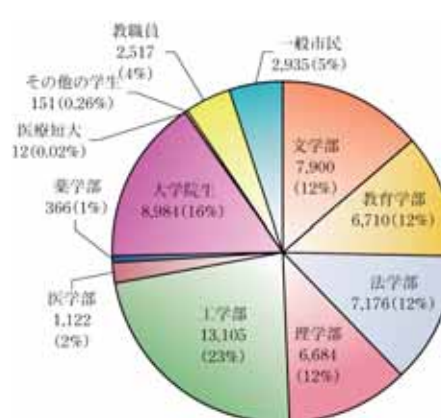
ビデオ・LDの利用件数	1,000
CD-ROM [※] の利用件数	12

※スタンドアロンのみ

(6) 分野別貸出冊数

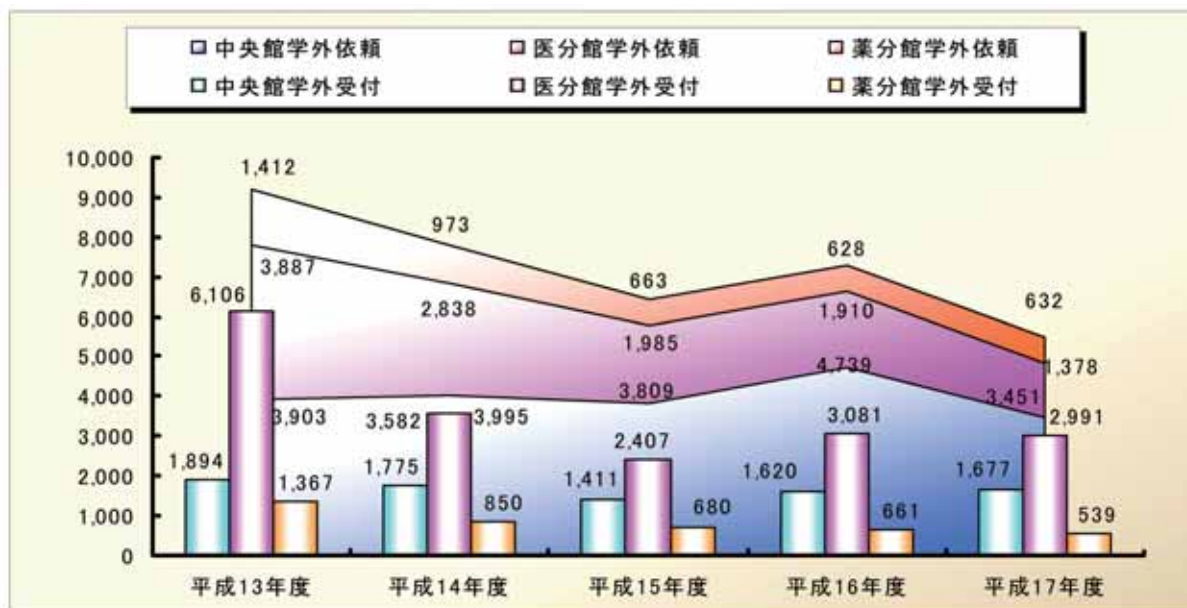


(7) 学部別貸出冊数

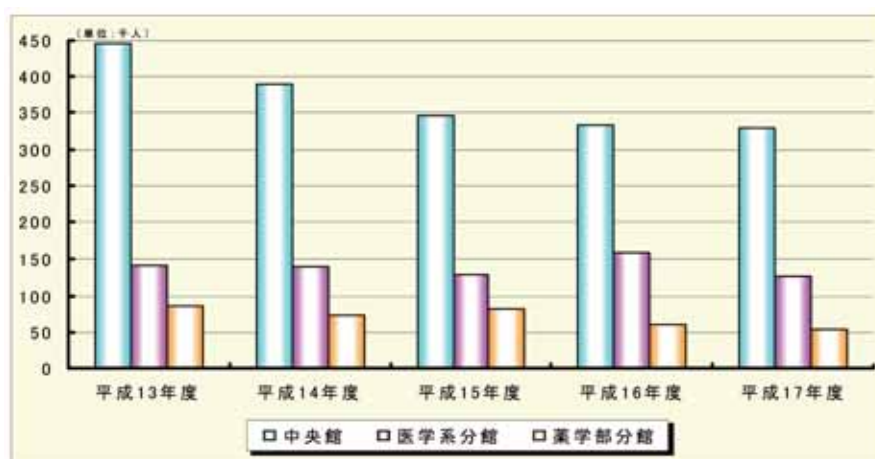


Ⅱ. 年次推移（平成12～16年度）

(1) 他大学との相互利用（文献複写）件数の変化



(2) 入館者数の変化



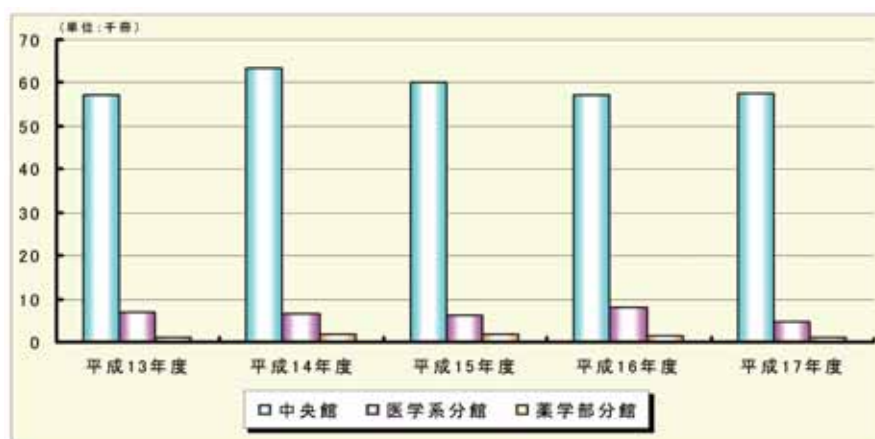
平成14年度から中央館では入退館システムを導入し、入館者数統計調査を更新した。

平成13年度との格差はシステム更新によるものと考えられるが、その後4年間は、微減傾向である。

今年度は、図書館南棟が増築され第三閲覧室がオープンした。

入館者数増加への反映を期待したい。

(3) 貸出冊数の変化



Ⅲ. 受入統計

(1) 年間受入冊数

		中央館			医学系分館			薬学部分館			計
		購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	
図書	和漢書	6,082	179	6,261	440	5	445	35	1	36	6,742
	洋書	2,201	567	2,768	1,459	0	1,459	317	0	317	4,544
	計	8,283	746	9,029	1,899	5	1,904	352	1	353	11,286
雑誌	日本語	907	0	907	210	657	867	41	102	143	1,917
	外国語	964	0	964	387	125	512	43	25	68	1,544
	計	1,871	0	1,871	597	782	1,379	84	127	211	3,461
新聞	日本語	9	0	9	4	2	6	5	3	8	23
	外国語	2	0	2	1	1	2	0	0	0	4
	計	11	0	11	5	3	8	5	3	8	27

(2) 蔵書数

		中央館	医学系分館	薬学部分館	計
図書	和漢書	721,350	71,544	15,929	808,823
	洋書	352,049	106,310	21,783	480,142
	計	1,073,399	177,854	37,712	1,288,965
雑誌	日本語	9,798	2,312	593	12,703
	外国語	3,836	2,589	462	6,887
	計	13,634	4,901	1,055	19,590

※平成17年度に不要図書の処分を実施した。

熊本大学永青文庫セミナーを開催



6月24日(土)に、川口恭子氏の客員教授就任を記念して財団法人永青文庫から吉丸良治理事をお迎えし、熊本大学くすの木会館レセプションルームにおいて第1回「熊本大学永青文庫セミナー」を開催しました。川口客員教授による特別講演「手紙からみた細川重賢の交遊」には、100人を越える受講者が出席され、会場は満員の盛況となりました。

(左上：川口客員教授 右下：吉丸理事)

熊本大学永青文庫セミナー

手紙からみた細川重賢の交遊抄

川口 恭子

細川重賢^{しげかた}（1720～1785）は部屋住みの身であったが、兄宗孝の急逝により、細川家第8代藩主となった。

当時、藩財政は疲弊の極にあったので、堀平太左衛門勝名を大奉行に任命して、いわゆる「宝暦の改革」を行った。藩校「時習館」・医学校「再春館」の創設、「刑法草書」の制定、行政機構改革、産業の振興等々を行い、これが成功し、中興の名君としてその名はよく知られているところである。

今回は『重賢公御代 御代筆扣』(永青文庫蔵)という重賢の私信を記録した史料により、その交遊の様子をみてみた。

「代筆」とは、主君の意をうけて右筆(書き役)が書いたものである。各所に訂正の朱書も記入されている。

諸大名、大名の嗣子、幕府関係者等70人に宛てられた600通の手紙の記録である。

時あたかも「博物学」盛行の時代であった。

動植物の「写生帖」は、『毛介綺煥』、^{もうかいきかん}『昆虫胥化図』、^{こんちゅうしよかづ}『艸木生写』^{そうもくせいしや}等々数多くのものが永青文庫に所蔵されているが、他の諸大名も同様に持っていて、互いに貸借を行っているのである。

珍禽^{ちんきん}の図書、鳥の絵、^{ちゅうちず}『蟲豸図』、^{まじゅうずい}『奇獣図彙』、^{へびず}『蛇図』等々の貸借をしている。

植物も、久木野村住吉山の「花蘭」や熊本・久住山にある「久住梅」を所望されたり、犬山城主成瀬氏からは「宮重大根^{みやしげだいこん}」の種をもらったりしている。これは熊本にもたらされ、二、三ヶ所に植え付けられた。

鳥類もかなりの種類のもが屋敷で飼われていたようで、珍しいものを交換している。

俳名での手紙のやり取りも行われている。重賢の俳諧は「江戸座」の点取り俳諧といわれるもので、連衆・点者の名前が俳名で書かれている。その他、能・馬・茶・書物等々、当時の人々の関心事が窺えて楽しい。

かわぐちやすこ
附属図書館客員教授



重賢公御代 御代筆扣

表紙の言葉

今号は熊本城二ノ丸公園の熊本
県立美術館の外観(玄関)です。

熊本大学附属図書館南棟・ 放送大学熊本学習センター合築棟 竣工記念式典



竣工なった附属図書館南棟とテープカット

4月25日(火)に県内外から数多くの来賓をお迎えして「熊本大学附属図書館南棟・放送大学熊本学習センター合築棟竣工記念式典」が挙行されました。

地上3階・地下1階建の1階と地階を附属図書館、2階と3階を放送大学が使用しています。

(テープカットは、向かって左から柏木潤熊本学習センター長、御手洗康放送大学学園理事長、金澤和夫熊本県副知事、中田徹文部科学省大臣官房審議官、崎元達郎熊本大学長、中山峰男崇城大学長、中山仁附属図書館長)

平成18年度熊本大学附属図書館運営委員会委員

大学院医学薬学研究部	館長	中山 仁
文学部	助教授	坂元 昌樹
教育学部	教授	小川 幸三
法学部	助教授	田村 耕一
理学部	教授	高野 博嘉
大学院医学薬学研究部	教授	三浦 烈(医学系分館長)
大学院医学薬学研究部	教授	大塚 雅巳(薬学部分館長)
工学部	教授	矢野 隆
大学院社会文化科学研究科	助教授	秋吉 貴雄
大学院自然科学研究科	助教授	伊東 龍一
大学院法曹養成研究科	教授	多田 望
医学部附属病院	助教授	高田 彰
教養教育実施機構	助教授	館石 宏明
医療技術短期大学部	教授	西阪 和子

熊本大学学術リポジトリがスタート!!

前号でお知らせしていたように、5月から熊本大学学術リポジトリの正式運用が始まりました。研究者から投稿されたコンテンツを蓄積し、世界中の利用者に無料で提供するシステムです。これからの発展が期待されています。



水俣病関連資料を公開!!

水俣病が公式に確認されて50年。熊本大学学術資料調査研究推進室の活動の成果として、水俣病関連資料の内、「水俣病に関する熊本大学医学部の研究論文等の目録」と「新聞記事見出しによる水俣病関係年表（一部原記事画像へのリンク付）」を5月1日に公開しました。



人事異動 (平成18年3～6月)

- 新任 (平成18年4月1日付)
 - 学術情報課学術情報企画係
吉富 寛明
 - 学術情報課図書情報係
笠 彩子
 - 学術情報課電子情報係
岩岡 仁美
- 異動 (平成18年4月1日付)
 - 学術情報課学術情報企画係長
大谷 眞理 (自然科学系事務部工学系総務係)
- 退職 (平成18年3月31日付)
 - 緒良中 忠義 (学術情報課学術情報企画係長)



東光原：熊本大学附属図書館報
第45号 平成18年7月刊

発行 熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
Tel. 096 (342) 2273 Fax. 096 (342) 2210
編集 浦田博臣 杉本孝之 笠 彩子
URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

日誌 (平成18年3～6月)

- 3/3 第9回係長会議
- 3/7 第1回図書館システム仕様策定委員会
- 3/9 第5回附属図書館運営委員会
- 3/12 熊本大学個別学力検査 (後期日程)
- 3/24 熊本大学卒業式
- 3/31 熊本大学学術リポジトリ試行開始
- 4/4 熊本大学入学式
- 4/5-14 新入生ガイダンス
- 4/7 医学教育部大学院生ガイダンス
- 4/18 第1回附属図書館運営委員会
- 4/19 Web of Science 講習会
- 4/20-21 基礎セミナーガイダンス「図書館活用法」
- 4/20 第36回九州地区国立大学図書館協会総会 (鹿児島市)
- 4/21 第57回九州地区大学図書館協議会総会 (鹿児島市)
- 4/25 熊本大学附属図書館南棟・放送大学熊本学習センター合築棟竣工記念式典
- 4/27 第3閲覧室 (南棟) 利用開始
- 4/27-28 基礎セミナーガイダンス「図書館活用法」
- 5/1 水俣病関連資料の公開
熊本大学学術リポジトリ運用開始
- 5/9 第2回図書館システム仕様策定委員会
- 5/12 ガイダンス・授業支援
- 5/23-6/6 ガイダンス中級編
- 5/31 第2回薬学部分館運営委員会
第1回阿蘇家文書修復完成記念展実行委員会 (熊本県立美術館)
- 6/1 第1回医学系分館運営委員会
- 6/2 第1回図書館専門委員会
第1回係長会議
第3回図書館システム仕様策定委員会
- 6/9 第12回熊本県大学図書館協議会総会 (熊本大学)
- 6/15 第2回附属図書館運営委員会
- 6/24 熊本大学永青文庫セミナー
- 6/28-29 国立大学図書館協会総会 (学術総合センター)